

〔資 料〕

南アルプス千枚岳の駒鳥池で夏季に出現するミジンコ類

市川久祥¹⁾

The Cladocerae found in the Komadori-ike, Senmai-dake mountain, the Southern Alps, Japan, in August 2013

Hisayoshi ICHIKAWA¹⁾

はじめに

枝角目はミジンコと呼ばれ、甲殻綱鰓脚亜綱に属し、コスモポリタンとして知られる種が多い。本分類群は湖沼の動物プランクトンとして重要な位置を占め、生活様式から浮遊性種と底生種に分けることができる。日本からは90種ほどが知られており、分類学的な研究が進むと、更に多くの種類が加わるものと考えられている(田中, 2002)。

高山帯での枝角目について、門田(1965)は従来の報告をまとめ、ハリナガミジンコ *Daphnia longispina* やミジンコ *D. pulex*, ホロミジンコ *Holopedium gibberum*, オオシカクミジンコ *Alona*

affinis, シカクミジンコ *A. guardrangularis*, マルミジンコ *Chydorus sphaericus* の6種を主な出現種としている。中部地方の高山帯における枝角目の報告は門田(1965)により、八ヶ岳の火山湖沼群で上記6種, Hirai and Tanida (1983)により、白山高山帯の池沼で、マルミジンコとシカクミジンコの他にマギレミジンコ *Daphnia ambigua* がされている。しなしながら、南アルプスについての報告は知られていない。

そこで、筆者は2013年8月に南アルプス千枚岳の駒鳥池で動物プランクトンの採集を行った。高山帯・亜高山帯である南アルプスの枝角目動物相を明らかにすることを目的としてここに報告する。尚、

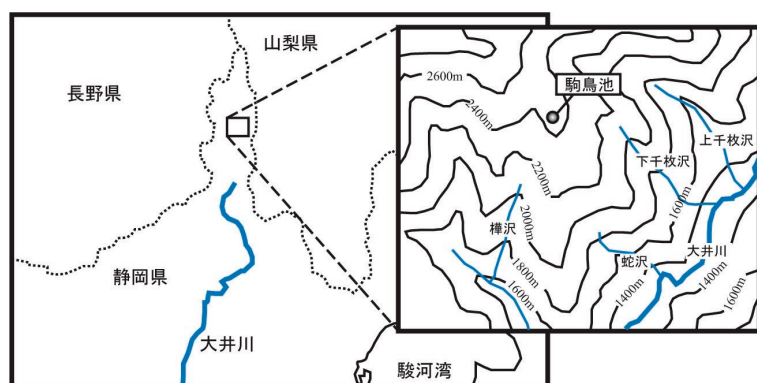


図1 調査地域(駒鳥池)の位置と環境(左:調査地域の位置, 右:調査地域の環境)

¹⁾ 株式会社とと・PLANNING, 〒478-0035 愛知県知多市大草字東屋敷67番地
TOTO PLANNING Co. Ltd. 67 Azumayasiki, Okusa, Chita City, Aichi 478-0035, Japan



調査地と方法

採集は2013年8月18日に南アルプス千枚岳に位置する駒鳥池(35°29'19.6800"N, 138°12'27.8160"E, 標高2428 m)で行った(図1). 本対象池は登山道に隣接する池で林内に位置しており, 透明度が高く, 蘚類が水面まで繁茂していた. 水深は浅く, 最深部で50 cm程度であった. 流入や流出口は見られなかった. 標本は調査地点より5L採水し, 目合0.33 mmのプランクトンネットで濾し取った. 採集された標本は10%ホルマリンで固定し, 光学顕微鏡を用いて10~400倍の倍率で観察した. 分類と種の配列は田中(2002)に従った.

結 果

本調査によって, 2科3種が確認された(表1, 図2). 以下に得られた標本の体長と同定理由を示す.

トガリオカメミジンコ *Simocephalus serrulatus* (Koch)

体長は1.0~1.7 mm. 得られた標本全てが単為生殖雌であった. 他の*Simocephalus*とは図3の通り頭頂に微刺を生じる点で見分けることができた(田中, 2002; 水野・高橋, 2000).

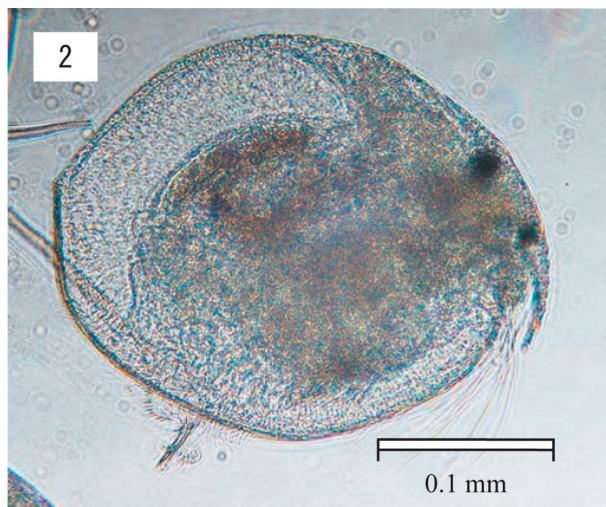


図2 確認種の写真, 1: トガリオカミジンコ, 2: マルミジンコ, 3: *Chydorus* sp.

今回得られた標本は静岡県自然学習資料センターのその他の無脊椎動物(SPMN)として登録申請中である.

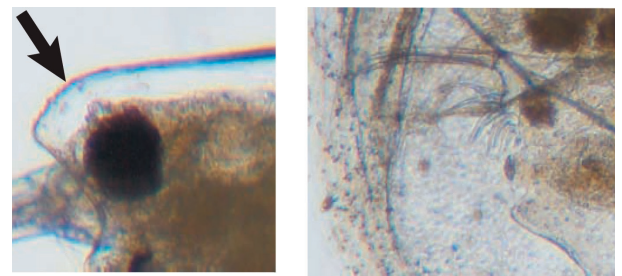


図3 トガリオミジンコの形質(左: 頭部, 右: 後腹部)

マルミジンコ *Chydorus sphaericus* (Müller)

体長は0.27~0.30 mm. 単為生殖雌のみの確認であった. 殻が円~広卵形を示すことと殻刺を有さない(田中, 2002; 水野・高橋, 2000)特徴からマルミジンコであると同定した.

Chydorus sp.

体長は0.39~0.45 mm. 単為生殖雌のみの確認であった. 本種は同属のマルミジンコに酷似するが,

表1 調査結果一覧

分 類		種 名
鰓脚綱	枝角目	ミジンコ科
		トガリオカメミジンコ <i>Simocephalus serrulatus</i>
		マルミジンコ科
		マルミジンコ <i>Chydorus sphaericus</i>
		マルミジンコ属の1種 <i>Chydorus</i> sp.
合計		3 科
		3 種

殻が長円型であること、口唇板の先端が細く伸長していたという特徴から、日本で確認されている既知種とは一致しなかった。

考 察

得られた枝角目は沈水植物に依存する種で占められていた。要因は駒鳥池が蘚類で水面まで繁茂しているためであると考えられる。

トガリオカメミジンコが属する *Simocephalus* は高山帯に出現する種として知られていない（門田, 1965）が本調査で新たに高山帯での出現が確認された。トガリオカメミジンコは広温性であることが知られており（田中ほか, 2004）、高山帯での低水温にも適応できるものと考えられる。

マルミジンコは高山帯の主要なプランクトンとされ、八ヶ岳や白山高地での分布も知られている（Hirai and Tanida, 1983；門田, 1965）。平地でも普通に見られる種類である。南アルプスでも同様に分布していることが確認された。

Chydorus sp. は更なる比較、検討が必要である。今回得られた標本は全て単為生殖雌であった。種の同定をするためにも、有性生殖雌や雄の採集が望まれる。

枝角目は季節により、優占種や出現種が変化するため、動物相の把握に通年の調査が必要である。

謝 辞

本稿をまとめるにあたり、田中正明氏（四日市大学環境情報学部）および小鹿 亨氏（西三河野生生物研究会）には種の同定についてご教授いただいた。標本の採集に静岡県レッドデータブック哺乳類部会に同行させていただいた。また、匿名の査読者と静岡県自然史博物館ネットワークの佐々木彰央氏

には、原稿改定に際し、ご意見をいただいた。これらの方々に厚く御礼申し上げる。

引用文献

- Hirai, K. and K. Tanida (1983) Zooplankton of the some alpine ponds on Mt. Hakusan. Ann. Report Hakusan Nature Cons. Center, v. 7, p. 9-22.
- 門田定美 (1965) 高山湖沼における主要甲殻類プランクトンの生態に関する研究. p. 25.
- 水野寿彦・高橋永治 (2000) 日本淡水動物プランクトン検索図説. 東海大学出版会, 551p.
- 田中正明 (2002) 日本淡水産動植物プランクトン図鑑. 名古屋大学出版会, 名古屋, 584p.
- 田中 晋・大高明史・西野麻知子 (2004) 琵琶湖沿岸帯および内湖のミジンコ相. 陸水学雑誌, 65 巻, p. 167-179.